

令和2年度 【稲美町】認知症地域支援推進員活動報告

【稲美町】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割：認知症施策全般担当

窓口相談

認知症相談窓口連絡会の開催

もの忘れ健診の実施

認知症教室開催

認知症予防・理解等の啓発業務

認知症サポーター養成講座事務

キャラバンメイト連絡会の開催

認知症関連の連携会議への出席

認知症家族会の支援

認知症カフェの支援

認知症初期集中支援推進事業

認知症高齢者等SOSネットワーク事業

認知症ケアパスの作成・普及

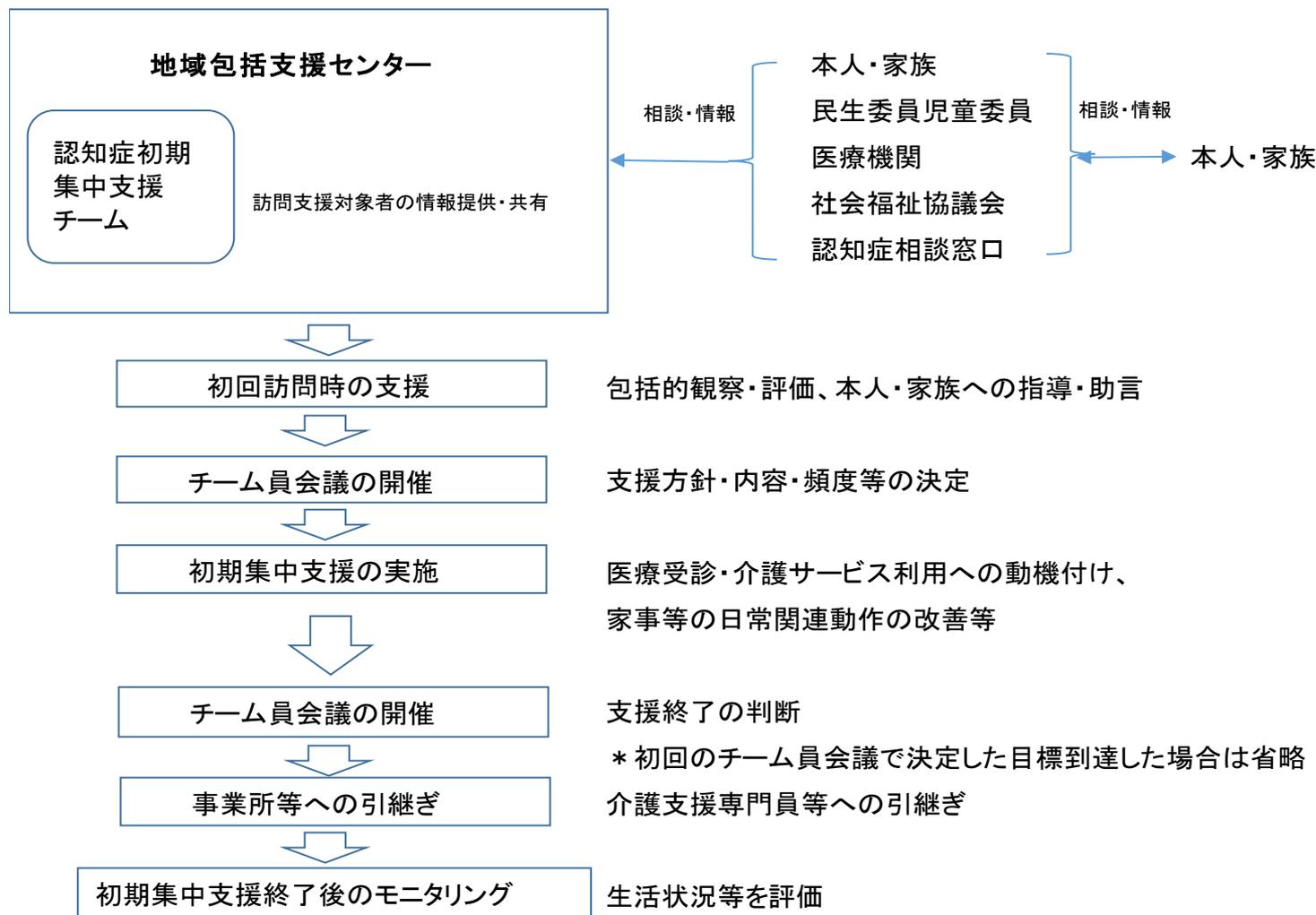
報告者氏名：森本 実佳

【稲美町】認知症施策全体図

予防	<ul style="list-style-type: none">■健康教育■介護予防事業（いきいきサロン・いきいき広場・いきいきミニ広場）
早期支援	<ul style="list-style-type: none">■もの忘れ健診■認知症相談窓口継続訪問支援（在宅介護支援センター）■東播認知症教室■介護予防事業（いきいきサロン・いきいき広場・いきいきミニ広場）■本人ミーティング
家族支援	<ul style="list-style-type: none">■認知症相談窓口（3箇所）■東播認知症教室■継続訪問支援（在宅介護支援センター）■家庭介護教室■認知症家族会の支援■SOS見守りネットワーク徘徊高齢者家族支援サービス
地域連携	<ul style="list-style-type: none">■認知症サポーター養成■地域見守り活動事業■認知症カフェ支援■認知症相談窓口連絡会■東播認知症連絡協議会等連携会議への参加

【稲美町】R元年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 テーマ番号<1>認知症初期集中支援事業の効果と課題

イメージ図



【稲美町】R元年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 テーマ番号<1>認知症初期集中支援事業の効果と課題

○ 認知症初期集中支援チームの活動実績

初期集中支援チーム 訪問者						
	訪問年度	性別	年齢	世帯	DASK	結果
1	H29	男	82歳	高齢	36	①妻が本人と離れる時間が増えた ②妻の認知症の理解が深まった ③車の運転をやめた
2	H30	男	65歳	高齢	45	①デイサービスの導入（時間的行動パターンを変えた） ②車の運転をやめた
3	R1	男	72歳	高齢	43	①医師、薬剤師、妻が連携し確実な服薬管理ができた。 ②妻の認知症理解が深まった。
4	R2	女	82歳	高齢	34	①拒否感が強かったが医療受診、介護保険に繋がった。 ②家族が認知症の理解を深めるきっかけになった。 ③ケアマネがつくことで不安を吐き出す場ができた。 ③デイケアの導入（本人の認知症の進行予防、夫の介護ストレスの軽減）



〈効果〉

- ・事業対象者にあげることによって、アセスメントシートに基づき細やかに情報収集するため、新たな気づきがある。また、まだ初期で介入は不要、見守りで対応できると思っていたケースでも事業対象として関わると課題がみえてきた。さらに、拒否感が強くとても医療受診や、介護保険サービスの導入は困難とされていたケースも真正面からではなく、本人の関心事に焦点を当ててチームで関わることでサービス導入につなげることができた。
- ・日常業務で関わりの少ない専門職とチーム員会議を通じて連携を深めたり、事例について検討するよい機会になった。

〈課題〉

- ・医療受診において、こちらからの情報提供には応じていただき、別の理由で受診するが認知症の検査をしてほしいなどのお願いは聞いていただけが、受診結果をおしえていただくことができないため、正確な診断結果がわからず、今後のサービス導入の方向性を決めるにあたり、支障がある。医療・介護連携の課題を感じる。



最後に・・・（今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い）

コロナ渦で感染対策が必須な世の中だが、認知症の方がそれを理解し、正しく行動することは難しい。しかし、認知症を正しく理解する人々が増え、安心できる居場所があればこんな時代でも社会参加ができ、いきいきと暮らすことはできると思われる。今後は、認知症初期の方が気軽に、そして安心して過ごせる居場所を認知症当事者、その家族、地域の方、認知症に関わる専門職と一緒に作っていききたい。

